

# 中学野球の中学部活動と硬式クラブチームにおける競技社会的スキル及び個人・社会志向性と規範行動の比較

浅海 秀介(競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)  
指導教員 山本 達三

キーワード：中学生，問題行動，規範意識

## 1. 緒言

野球大会の始まりは1915年に朝日新聞社が「野球を通じて青少年の心身を鍛え、人間形成の助けとする」を掲げて始まったが、2000年代以降、不祥事件数が大幅に増加している(中村, 2010)。本場に野球が人間形成の助けとなり、社会的に望ましい人間形成に貢献できているのか疑問が浮かび上がる。

臼井ら(2007)は、規範意識が問題行動を抑制すると報告している。杉山(2004)は、競技社会的スキルと個人・社会志向性が日常場面の望ましい行動に繋がることを報告しており、それらのスキルや志向性は規範意識に基づく行動にも関連する可能性がある。

本研究では、中学野球の中学部活動(以下軟式)と硬式クラブチーム(以下硬式)の選手を対象とし、競技社会的スキル及びスポーツにおける個人・社会志向性と規範行動の比較をし、それらの関連について明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

- ・調査対象者：大阪・京都・滋賀の中学野球部に所属する選手(171票)と硬式クラブチームに所属する選手(151票)を対象とした。
- ・調査項目：スポーツにおける個人・社会志向性尺度、競技社会的スキル尺度、小中学生用規範行動自己評定尺度を用いた。

## 3. 結果

表1は、軟式と硬式で各尺度の下位因子の平均値を比較するために行ったt検定の結果である。軟式の方が対人間での規範行動で有意に高い値を示し、一方、硬式が軟式よりも競技社会的スキルの4要因で有意に高い値を示した。その中でも表出力が最も高い値を示した。

表2は規範行動を従属変数、競技社会的スキル、個人・社会志向性を独立変数に重回帰分析を行っ

た結果である。規範行動の対人間での規範行動、個人での規範行動に対して解読力、社会的志向で正の関連が認められた。

表1 軟式・硬式の平均値とSD, t検定結果(軟式n=171, 硬式n=151)

		M±SD	t 値	自由度	有意確率	効果量
個人的志向	軟式	3.02±0.76	-4.932	320	.000	.55(中)
	硬式	3.45±0.82				
社会的志向	軟式	4.20±0.47	0.706	281.226	.481	.11(無)
	硬式	4.16±0.60				
表出力	軟式	3.47±0.88	-3.552	319	.000	.39(小)
	硬式	3.80±0.79				
解読力	軟式	3.06±0.83	-3.069	320	.002	.34(小)
	硬式	3.36±0.92				
社会的自己コントロール	軟式	2.47±0.78	-2.895	273.198	.004	.33(小)
	硬式	2.77±1.05				
相手への対応	軟式	3.00±0.94	-2.756	320	.006	.30(小)
	硬式	3.29±0.97				
対人間での規範行動	軟式	4.26±0.52	2.948	284.489	.003	.34(小)
	硬式	4.06±0.66				
個人での規範行動	軟式	4.24±0.70	0.651	319	.516	.07(無)
	硬式	4.19±0.75				

表2 規範行動と競技社会的スキル、志向性の重回帰分析

R (R <sup>2</sup> )	対人間での規範行動		個人での規範行動	
	標準回帰係数	有意確率	標準回帰係数	有意確率
	-.649 (.421)	.000	-.523 (.274)	.000
表出力	(.088)	.126	(.098)	.127
解読力	.241	.000	.212	.000
社会的自己コントロール	(.007)	.880	(-.034)	.494
相手への対応	(.013)	.763	(.005)	.925
個人的志向	-.094	.047	(.015)	.773
社会的志向	.569	.000	.422	.000

(標準回帰係数)の数値はステップワイズ法で除外された項目である

## 4. 考察

軟式では、教員が指導しているため、チーム内のルールや規則に対しての道徳的指導が多いことから、硬式より対人間での規範行動で高い値を示し、硬式では、地域の野球経験者が指導しているため技術指導中心であり、選手の野球知識が豊富となり表出力が最も高い値を示したと考える。

規範行動を高めるためには、他者の気持ちを読み取ること、組織との繋がりを大切にすることが重要であると考えられる。

[参考文献]

杉山佳生.(2004) 競技社会的スキル及びスポーツにおける個人・社会志向性と日常場面での向社会的行動との関係, 健康科学, Vol. 26.